

「教員のための金融教育セミナー」を開催

平成21年8月に開催した「教員のための金融教育セミナー」の模様をご紹介します。



パネル・ディスカッション

学校における金融教育の実践のために

子供たちの生きる力を培うために、金融教育へのニーズが高まっています。金融広報中央委員会(以下、金広委)では、学校の先生方などを対象とする金融教育セミナーを8月5日に東京で開催しました。当日は、全国から約百六十名の方が参加されました。

開会に当たり、小林信介会長より、「本セミナーで得られたことを今後の学校における金融教育の実践で役立てていただきたい」との開会あいさつがありました。

新学習指導要領と金融教育について

来賓の文部科学省初等中等教育局・梶山正司視学官よりごあいさつをいただきました。新学習指導要領における経済や金融に関する記述の充実例をご説明された後、経済金融教育のさらなる発展のためには、体験的な学習等の積極的な導入や、金広委の補助教材や資料の活用も有効であると話されました。

■ パネル・ディスカッション

続いて、「子どもをめぐる社会環境と学校における金融教育」をテーマにパネル・

ディスカッションが行われました。パネリストとして、弁護士の宇都宮健児氏、国立教育政策研究所の工藤文三初等中等教育研究部長、東京都目黒区立目黒中央中学校の三枝利多教諭にご参加いただきました(コーディネーターは河野圭志事務局長)。社会環境の変化を受けて子どもにどのような変容がみられるか、これに対応するために金融教育で何を伝えるべきかといった論点について、それぞれの立場から真摯な意見・提言が出され、聴かれた先生方からは「社会的背景から子どもを取り巻く現状を考える良い機会になっ

た」「金融トラブルに関する相談窓口などに関する具体的な教育の必要性を痛感した」といった声が聞かれました。

■分科会

小・中・高等学校ごとに行われた午後
の分科会では、金融教育の実践例(各分
科会で二例ずつ)について、報告および関
連するワークショップが行われました。

小学校分科会では、東京都北区立西浮
間小学校・木村良平校長による「お金は
大切に使う」の事例に基づき、「金融教
育との関連」や「指導上の留意点」を盛り
込みながら指導案を作成しました。続け
て、茨城県神栖市立横瀬小学校・山本良
信教頭より「米作りの会社」なめがたガキ

ンチヨ米会社「経営の試み」の事例に関す
る報告があり、ワークショップでは、児童に
現金を取り扱わせることを想定した実践
例をグループで検討し、発表しました。

中学校分科会では、静岡市立安東中
学校・増田富教諭より「起業体験学習」株
式会社「黒潮」、東京都港区立朝日中
学校・仲村秀樹主幹教諭より「企業(会
社)をつくってみよう」の事例について
報告がありました。ワークショップでは、
起業体験学習の中で「株当たりの配当
を増やすための方策を議論したほか、投
資家向け会社情報を考えました。

高等学校分科会では、神奈川県立海老
名高等学校・梶ヶ谷穰教諭より「フェア(公

正)な経済行為とはそして「お金とは?」、
滋賀県立大津商業高等学校・田村光宏教
諭より「生徒自主開発商品『オリジナル靴』
の開発・販売」の事例に関する報告があり
ました。またワークショップでは、利益のみ
を考える投資行動などは是非に関する授
業を進める際の説明・指導内容やオリジ
ナル靴のデザイン、価格設定、製作数量を
企画立案し、発表し合いました。

参加された先生方からは、「授業づく
りのヒントとなるようなアイデアがたく
さん得られた」、「自分の実践でも取り
入りたい」などの感想が寄せられました。
今回のセミナーを一つのきっかけとし
て、学校における金融教育がさらに広く
行われていくことをが期待されます。



小学校分科会
現金の取り扱いを想定した実践例をグループで検討



中学校分科会
投資家向け会社情報を示しながら、授業の進め方について説明



高等学校分科会
投資行動などの授業での説明・指導内容をグループで討議